

組合の楽しい便り投稿歓迎します。

ラベルニュース

No477



令和 7 年 10 月号

東京都ラベル印刷協同組合

〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

編集:広報・情報システム化委員会

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

経済産業省が関係団体に要請文

「価格交渉促進月間」の実施

について組合員へ周知徹底を

経済産業省は全国の関係事業者団体の代表者宛に武藤容治大臣名で、「価格交渉推進月間の実施について」と題した要請文を出しましたが、九月の一月月だけではとても対応は難しく長期にわたっての交渉が望まれています。

また、二面に既法の通り、東京都の最低賃金が十月三日より、時給一二六円になることが決定しています。

「物価高が継続する中、物価上昇に負けない大幅な賃上げを成し遂げていくため、原資の確保が不可欠であり、より一層の価格転嫁、取引適正化が重要である」とは言うまでもありません。

米国の関税措置による影響等が不透明な中にあっても、三〇年間続いた停滞から脱却し、継続的な賃上げが実現する成長型の経済に転換するためには価格転嫁、取引適正化の取組を継続していく必要があります。

これまで、官民を挙げて推進してきたサプライチェーン全体での取引適正化の取組を継続していきけるよう、引き続き十分な配慮をお願いいたします。この九月は、二〇二五年度下期の価格改定時期を迎える企業も多く、価格交渉・価格転嫁にとって大事な時期となりますので、何卒御協力ください。

価格転嫁の現状をみると、受注企業が、「コスト上昇額のうち価格転嫁できた額」の割合は、未だに五割程度となっており、一層の転嫁率の向上が課題です。政府としては、二〇二一年九月以来、毎年九月と三月を「価格交渉促進月間」（以下、「月間」という）と位置づけ、「月間」終了後に、受注側中小企業の皆様を対象に、価格交渉・転嫁等の状況についてアンケート調査等を実施し、その結果を公表しています。

また、取組状況が芳しくない発注企業トップに対しては、下請中小企業振興法に基づき、事業所管大臣名での指導・助言を行い、自発的な改善を促しています。さらに、本年九月以降、「価格交渉促進月間」に基づくアンケート調査や、下請Gメンによるヒアリング情報を活用し、迅速な注意喚起を実施します。」とされています。

また、二〇二六年一月一日より、中小企業庁および全国の地方経済産業局に配置されている取引調査員の通称である「下請Gメン」の名称と、全国四七都道府県に設置されている「下請かけこみ寺」の名称を、それぞれ「取引Gメン」と「取引かけこみ寺」に変更されることになりました。電話は左記へ。

0120-418-618

東京都が最低賃金を

時給一二二六円に

東京都最低賃金（地域別最低賃金）の改正については、本年六月三〇日、東京労働局長から東京地方最低賃金審議会に対し諮問を行いました。同審議会は審議の結果、八月七日、現行の時間額一六三円を六三円引き上げて一二二六円に改正する（引上げ率五・四二％）ことが適当である旨の答申を行いました。

これを受けて東京労働局長は、答申内容の公示等所要の手続きを経て、東京都最低賃金を時間額一二二六円とする決定を行い、九月三日に官報公示を行いました。効力発生日は令和七年十月三日です。

東京労働局では、引き続き、改正された最低賃金を始めとする最低賃金制度の周知を行うとともに、中小企業・小規模事業者に対する業務改善助成金、キャリアアップ助成金など支援施策を推進していくとしています。

東京都最低賃金改正のお知らせ

※ 東京都最低賃金は、令和7年10月3日から

時間額1, 226円に改正されます。

東京都内で働く全ての労働者に適用されます。

< 問合せ先 >

東京労働局労働基準部賃金課（TEL 03-3512-1614（直通））

東京働き方改革推進支援センター（TEL 0120-232-865）

リネットック温室効果

ガス削減取組みを加速

リネットックは、科学的根拠に基づいた温室効果ガス（以下、GHG）排出削減

減目標「SBT」の認定機関である「SBTiニシアチブ（以下、SBTi）」より認定を取得しました。

当社グループは将来にわたって持続的な成長を遂げていくため、二〇三〇年のあるべき姿を見据えて長期ビジョン「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030（LSV 2030）」を掲げ、さまざまな社会的課題に対して、企業グループとしての役割・責任をしっかりと果たすべく取り組みを加速させています。その重点テーマの一つである「脱炭素社会の実現への貢献」に向けて、今後も引き続きGHG排出削減に取り組んでいくとしています。

日本ウエスト

関東営業所を開設

日本ウエスト㈱は、八月十二日より「日本ウエスト㈱関東営業所」を開設し、営業部門ならびに物流（収集運搬）部門を同営業所へ移転しました。

同社ではこれを機により一層のサービスに努めて

いくとしています。

新営業所の住所、電話、FAXは左記の通り。

〒三五〇〇八二一 埼玉

玉川県越市福田一四七

☎ 〇四九一二三九一三二

三二 FAX 〇四九一二三

九一二二二二

マルウ接着東京支店

建て替えのため移転

マルウ接着東京支店は、建物の建て替え工事により東京支店・倉庫及び営業事務所を九月十六日より移転することになりました。

移転後も従来通り業務を継続し、電話番号およびFAX番号の変更はない。新拠点の住所は次の通り。

■東京支店・倉庫

〒一三六〇〇八二 江

東区新木場三一五一六 新

木場ロジスティックセンタ

一二階 ☎ 三五二二一六七

〇一 FAX 三五二二一

■営業事務所

〒一三六〇〇八二 江

東区新木場二一五一 新木場第二物流センター三階

富士山までの 140 km を歩き 「ネバーギブアップ」の精神が

(株)日本ラベル 平山雄太



資材価格の高騰や人材確保の難しさ…。経営者となった今、それら一つひとつが現実として重くのしかかることを、日々痛感して

います。

技術継承の壁や激しさを増す価格競争など、心配事を挙げればきりがありません。しかし、活路は必ずあるはずです。

私はかつて、健康食品業界の専門紙で七年間記者を務めていました。その後退職し、日本ラベルに入社するまでに少しの空白期間がありました。

最初は自由な時間を満喫していたものの、次第に

「何もしていない自分」への罪悪感が強まり、苦しくなっていました。そんなとき、亡き父から「今しかできないことをやれ」と言葉をもらい、私は一念発起し、自宅から富士山までの約一四〇kmを歩く挑戦を決意しました。

準備を重ね、臨んだ当日。筋肉の痛みに耐えながらも一歩一歩進み、時には迷い、時には弱音を吐きながら、5日間をかけ最終的には富士山の頂で美しいご来光を迎えることができました。あのとき見た景色は今でも忘れることは出来ません。

この経験が私に「ネバーギブアップ」という精神を根づかせてくれたと思います。経営の現場もまた挑戦の連続ですが、工夫と努力で必ず活路はあると信じています。

先日ある印刷会社の社長とお話する機会がありました。設備数が多いにもかかわらず、少人数で定時退社を実現しているのとこの

導線の工夫、機械メーカーをある程度統一することで複数人による機械操作の柔軟な分担、そして社長ご自身が現場経験を積んでいることも大きな強みでした。さらに、設備特性を熟知したうえで、他にはないアイディア商品も数多く生み出しておられました。その熱量に大きな刺激を受け、「私も負けていけない」と心が震える思いでした。今がベストだとは思いません。もっと作業効率を上げ、自社の機械を活かして、世の中にまだ存在しないような独自製品を創出していきたいという思いを新たにしています。

今年から本格的に組合活動にも参加するようになりました。最初は仕組みもわからず戸惑うことも多かったのですが、同業の皆さんと学び合い語り合う中で多くの刺激を受けています。特に、勉強会後の懇親会では、普段はなかなか聞けない業界のリアルな話や、先輩方の経験談を伺うことができ、大きな学びとなりました。仕事で困ったときに相談できる存在ができたことは、私にとって何よりも心強いことです。

先日のラベルフェスタにて九州シール印刷協同組合のセミナーで拝聴した、工場長同士が学び合う取り組みの話も印象的でした。経営者同士のつながりだけでなく、現場の従業員同士が切磋琢磨できる機会が増えれば、この業界はさらに力強く、持続可能なものになっていくと信じています。これから皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

日本ラベルホームページ

<https://www.nihon-label.co.jp/>

「ご存知ですか？」

ラベル剥離紙の水平リサイクル「資源循環プロジェクト」とは

■資源循環プロジェクトとは

ここ最近「資源循環プロジェクト」という言葉を目にしたり耳にしたりすることが多くなりました。

これはラベル台紙の水

平リサイクル(廃棄されたものを再び同じ製品に戻す高度なリサイクル)プロジェクトです。

ラベルを製造・使用するにあたり必要不可欠な台紙を「剥離紙」から、マテリアルリサイクル(廃棄されたものから分別、粉碎、溶融、押出などを経て、新しい製品の原料として使用するリサイクル手法)可能な素材で設計された「リサイクル専用台紙」に置き換え、使用済みのラベル台紙をユーザーから「有価物」として回収します。

回収した「リサイクル専用台紙」をマテリアルリサイクルし、再び「リサイクル専用台紙」の原料に使用することで、資源として循環する仕組みとなっています。

ます。

剥離紙は年間一三・九億㎡のやむを得ない廃棄物として、燃焼・廃棄、固形燃料化されています。その量は東京ドームに換算すると、何と約三万個分の面積になります。

■三つのリサイクルとは

剥離紙の処分については禁忌品扱いされるなど昔から大きな問題になっており、そのため、組合では二十年前から日本ウエストと契約を結び、剥離紙を固形燃料(RPF)にするサーマルリサイクルとして処理しています。

さらにこの上を行くのが、水平リサイクルやマテリアルリサイクルであり、一回使用した剥離紙をさらに剥離紙に戻すというもので、まさに資源循環プロジェクトです。

日本国内では、二〇〇〇年に制定された循環型社会形成推進基本法において3Rの考え方が導入されました。3RとはReduce

e(リデュース/廃棄物を減らす)、Reuse(リユース/廃棄物を再利用する)、Recycle(リサイクル/廃棄物を再原料化する)の頭文字をとった言葉です。

リサイクルには、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクル、ケミカルリサイクルの三つがあります。

さらにマテリアルリサイクルには、水平リサイクルとカスケードサイクルの二つがあります。

水平リサイクルとはPETボトルのボトルトポボトルのリサイクルなどが代表的な例として挙げられます。カスケードリサイクルとは元の製品とは異なる製品を再生させることです。

■課題も多い資源循環プロジェクト

資源循環プロジェクトの考えは将来の環境問題やSDGsの考えに沿ったものですが、その実現までには剥離紙をどうやって誰が回収するのか、品質の問題、

価格を現在と同じで供給できるのか等々、解決しなければならぬ課題が数多くあることも事実です。

現在資源循環プロジェクトは、日榮新化が中心となつてタック紙メーカー、シール印刷業者、インキメーカーが日々研究開発を重ねているので、近い将来実現できるものと思われます。

日本はいまサーキュラーエコノミー(循環経済)を目指しています。これまでに経済活動の中で廃棄されていた製品や原材料などを「資源」として循環させ、設計段階から廃棄物を発生させないという考えを軸にした経済システムです。

まさにこの「資源循環プロジェクト」こそが、国が推し進めるサーキュラーエコノミーに沿ったものなのです。

【引用資料】

<https://www.shigenjun-kan.com/project>

■尿検査で分かること

尿検査では、以下の五つの項目について調べます。

- ・尿蛋白
- ・尿糖
- ・尿潜血
- ・尿沈渣
- ・尿比重

No216 健康がいちばん!

蛋白、糖、など5項目チェック 尿検査で腎臓病などが分かる

■尿蛋白

尿に含まれるたんぱく質の量を調べる検査で、腎臓が正しく機能しているかどうかかわかります。何らかの原因で腎臓の機能が低下していると、本来は腎臓で処理されるべきたんぱくが尿に混じって排出されてしまいます。

なお身体的には健康でも、激しい運動をした後や生理前後、発熱時、ストレスがあるときなどは尿たんぱくが出ることもあるので、再検査を受けてください。

■尿糖

尿中のブドウ糖の量を調べる検査です。腎臓の機能低下や血糖値が一定数値を超えたときなどに、糖が尿中に漏れ出てきます。まず考えられる病気としては糖尿病がありますが、妊娠中は糖が出やすいです。

若くても、疲労やストレスで糖が出てくる場合がありますので、異常が見られる際には再検査を勧めてください。

■尿潜血

尿に血液が混じっているかどうかを調べる検査で、

尿が排出されるまでの器官に異常があると、潜血が見られます。一時的な潜血はよくあることで、一度潜血が見られたからといって疾患があるとは限りません。

また、生理中の女性が尿検査を受けると、潜血と診断されることもあります。正しい結果を知るためには、いずれの場合も再検査が必要です。

■尿沈渣

尿を遠心分離器にかけて、ときに沈殿した尿中の細胞成分を調べる検査です。

顕微鏡で観察して、細胞成分の数や形状から疾患を推測します。なお、尿沈渣は全ての人に受けてもらう検査ではなく、尿蛋白や尿潜血で陽性となったときに行われる検査です。

【異常があった場合に考えられる病気】

赤血球の異常：急性腎炎、慢性腎炎、腎結石など
白血球の異常：腎盂腎炎、膀胱炎など
上皮細胞の異常：膀胱炎、尿道炎など
円柱細胞の異常：慢性腎炎、ネフローゼ症候群など

結晶成分の異常：腎結石、急性肝炎、閉塞性黄疸など

■尿比重

腎臓の働きに異常がないかを調べる検査です。腎臓は体内の状況に応じて濃度の異なる尿を作って排泄させることにより、体内の水分量を調整しています。しかし、腎臓に異常があるときは調整が利かず、基準値から外れた数値が出る場合があります。

■異常な尿の色

正常なおしつこの色は薄い黄色です。血中の赤血球のヘモグロビンが壊れるとビリルビンができます。ビリルビンは十二指腸で、腸内細菌によつてウロビリノーゲンに還元されます。ウロビリノーゲンは腸管から再吸収されて尿中に排泄され、さらに酸化しウロビリンになります。このウロビリンは黄色で、尿の水分で薄まるので、正常な尿は薄い黄色になります。

【参考資料】

<https://hss.wellcoms.jp>

初のフレキシ印刷機「SMW-Tzero-350」 見当調整、監視の自動化に寄与 人手不足をスキルレス化と高速化

三條機械製作所（新潟県三条市猪子場新田 〇〇256・45・3131）では、このほど同社初となるナローウェブタイプのフレキシ印刷機「SMW・Tzero・350」を開発し、先月スペインで開催された「ラベルエキスポヨーロッパ2025」で初披露されました。

SMW・Tzero・350はUVフレキシ輪転方式を採用し、かつ同社の強みであるユーザーフレンドリーな機械設計能力を融合した新型ラベル印刷機です。

同社ではこれまでレタプレスやオフセット方式のラベル印刷機を開発・販売していたが、今回初めてフレキシ方式のラベル印刷機を開発し、ユーザーの課題であるオペレータ不足を「スキルレス化」と「高速化」により解決したと述べています。

特に印刷見当自動調整監視システム「ARCS」による見当調整・監視の自動化は人材不足のラベル印刷業界に大きく寄与できます。

同機は最大紙幅三五〇mm、最大印刷幅三三〇mmの八色機で、ロータリーダイカットとコールド箔ユニットを搭載しています。

最高ライン速度は毎分一五〇m、機械寸法（L八七〇〇×W一二〇〇×H一九〇〇）mm。

同機にも国内販売台数一位を誇る凸版輪転間欠式ラベル印刷機「JNAS」と同様、印刷見当自動調整・監視システム「ARCS（アークス）」を搭載している。同システムの最大の特徴は、自動補正監視機能と履歴管理機能。タッチパネルにシンダーサイズを入力後、自動補正機能により検討を確認し、自動補正と監視をし、さらに印刷見当の結果を履歴に残し、品質の見える化ができるというもの。

印刷機の使用を短期間で習得できることから、オペレーター不足の解消にも役立つとして高い評価を得ている。

同社では同機の内覧会をこの冬に予定しており、来年度には発売するとしています。

詳細はホームページで。
<https://www.sanjokikai.co.jp/ja/>

